

埼玉高速鉄道 旅客収入10%増見通し

今年度中間期 黒字初達成の可能性も

県の第3セクター「埼玉高速鉄道(SR)」が2006年度中間期(4~9月)で、主要収入源の旅客収入が前年同期比10%増の29億円超に上る見通しであることが明らかになった。同社や県の関係筋が明らかにした。旅客収入は当初の年間計画で約57億円を見込んでいたが、予想を上回る好収益によって、中間期で半分以上を達成することになりそうだという。このため、01年3月の開業以来初の黒字化達成の可能性が強まったとの見方が出ている。

埼玉高速鉄道線は赤羽岩淵 浦和美園間(14.6キロ)で営業しているが、開業以来の赤字が続き、2005年度決算では5800万円の償却前赤字を計上していた。しかし、今年になって、認知度の高まりや沿線開発で高層マンションの建設が進んでいることなどから、利用者が増加しているという。同社のコスト削減努力などもあり、06年度は償却前黒字6800万円の計画値達成の可能性が高くなっているという。

一方、10月以降の業績が好調に推移して、06年度決算の黒字化達成が確実になった場合、黒字転換を事業目標に据えている同社の杉野正社長が退任するとの観測も強まっている。杉野社長を巡っては、自民党神奈川県連が、同県知事選に杉野社長を擁立する方針を固めている。杉野社長を起用した上田知事は、「そういう話は困る」と不快感を示しているが、最終的には杉野社長本人の判断次第と見られており、今後の動向が注目される。

償却前黒字 経常損益から、現金支出を伴わない減価償却費を除いた損益がプラスとなっている状態。減価償却は、有形固定資産が年数とともに価値が減少する分を見積もり、費用として配分する会計上の手続きだが、膨大な設備資産を持つ鉄道会社の場合、特に開業初期は会計上、大きな負担となるため、償却前損益を用いる。

(2006年10月2日 読売新聞)